

チャペルニュース

2014年9月28日

人を赦すことができる

司祭 ケビン・シーバー

キリストは繰り返し赦すことの重要性を教えられる。祈りの原型となる『主の祈り』の中にも「わたしたちも人を赦します」が出てくる。しかし人を赦せず、主の祈りを唱えながらその難しさに悩むクリスチャンが少なくない。

+ + +

コリー・テンブームというオランダ人の女性は、第二次世界大戦時に家族と共に約 800 人のユダヤ人及び反ナチス活動家の命を救った人である。しかしとうとう、家族全員が逮捕される。父親と兄は獄中で死亡し、コリーと 59 歳の姉ベッツィはドイツのラベンズブルック強制収容所に送られ、そこで姉は痩せ衰えて亡くなる。コリーだけ奇跡的な釈放された。終戦後、彼女は各国を回り、神の赦しや人との和解について伝道活動をする。ある日、ドイツのミュンヘンにある教会でコリーは「神は我らを憐れみ... すべての罪を海の深みに投げ込まれる」(ミカ 7:19) についてのメッセージだった。

礼拝後、一人の男性が寄ってくるのが見えた。その男は忘れもしない、ラベンズブルック収容所で最も残酷な看守の一人だったのである。姉と一緒にその男の前を全裸で歩かされた恥辱の記憶が甦った。その男にも苦しめられて、ベッツィは死んだのだ。

その男は「わたしはその後クリスチャンになりました。神が罪を赦してくださることは有難いのですが、あなたの口からも聞きたいのです。赦してくれますか？」と言い、手を差し伸べた。

幾度も赦しの大切さを語ってきたコリーは凍ってしまう。怒りと復讐に燃えた思いが心の中でグルグル回る。同時に、自分の罪深さを痛感する。キリストがこの男性のためにも死んでくださったので、イエスより壁を高くするつもりか？と自分を責める。

コリーは手を上げるように必死に努力したが、無理だった。心の中で叫ぶ：「主イエスよ、わたしはこの人を赦せないのです。主の赦しを与えてください。」

そしてぎこちなく、ただ機械的にコリーはその男性の手を握った。そうすると、信じがたいことが起こった。肩に電流が流れ出したかのように、イエスから来る赦しの愛が腕を伝わって走り、コリーが握手した手に溢れたのである。涙を流しながら彼女は言った。「兄弟よ、あなたを赦します、心から赦します。」

コリーはその時のことについて書いた。「それは決してわたしの愛ではないことを悟った。確かに努力はしたが、わたしには力がなかった。」イエスの赦し、イエスの優しさが与えられたのである。

+ + +

わたしたちはコリー・テンブームよりもずっと小さなことで人を恨んだり、怒ったり、赦せないという思いを抱くことがある。しかし怒り、恨み、憎しみはわたしたち自身を毒してしまい、みんなの幸福を妨げる。そういう時、コリーを見習って祈ろう：「主イエスよ、わたしはこの人を赦せないのです。主の赦しを与えてください。」

熱心に祈り求めるならばイエスは必ず不可能と思われることでも可能としてくださる。十字架の愛の勝利はそこで現れるのである。